

トも盛り込まれ、活発な討論が行われる中、無事閉会した。閉会後も、場所をロビーに移して、また、駅へ向かう道中など discussion が続き、着替えの入った大きな鞆を会場に置き忘れるという、ハフニングもある程であった。

タンパク質工学と熱測定との関連のシンポジウムは、最近さかに行われ、一般の関心も高まっているように思われる。このようなワークショップの場を通じて、タンパク質工学の分野の研究者（特に構造・設計や生合成の研究者）と、熱測定の研究者の交流がさかになり、両分野が刺激しあって、ますます発展することを願いながらワークショップの報告としたい。

最後に、今回のワークショップで大変お世話になった高橋忠克先生及び研究室の方々にお礼を申し上げます。また、本ワークショップには、(財)大阪府大学学



術振興基金ならびに(財)熱測定振興会の御援助をいただいた他、日本物理学会、日本生物物理学会、日本農芸化学会、日本蛋白質学会など多くの学会から御協賛いただいた。これらの機関に厚く御礼申し上げます。

「熱測定」の編集委員長の表彰

1992年8月に英国のHatfieldで開催される第10回のICTA Congressにおいて、熱分析の奨励に対する顕著な貢献を表彰するために、熱分析に関連する主要なジャーナルの編集委員長に表彰額(plaque)が贈られることになった。今回表彰されるのは「熱測定」のほかに「Thermochimica Acta」と「Journal of Thermal Analysis」の編集委員長である。これらの2誌は創刊以来編集委員長が変わっていないので、それぞれW.W. Wendlant教授、故E. Buzagh博士とJ. Simon博士の名前が額の表に刻まれるが、熱測定は2年ごとに編集委員長が変わるので、The Editorsとだけ刻まれるとのことである。

ちなみに、歴代の「熱測定」の編集委員長は次のとおりである。

1973. 10-1975. 9	高橋洋一(東大工)
1975. 10-1977. 9	菅 宏(阪大理)
1977. 10-1979. 9	三田 達(現日本ダウコーニング㈱)
1979. 10-1981. 9	上出健二(旭化成)
1981. 10-1983. 9	谷口雅男(東工大工)
1983. 10-1985. 9	崎山 稔(阪大理)
1985. 10-1987. 9	小沢丈夫(現ダイセル化学工業㈱)
1987. 10-1989. 9	高橋洋一(東大工)
1989. 10-	松尾隆祐(阪大理)
	(神奈川大工 中村茂夫)